

民俗学研究の原点といわれる「民間伝承」「旅と伝説」「郷土研究」を電子書籍で復刻。
各誌の用語を横断検索でき、民俗学研究の発展に貢献できる資料群!!

民間伝承 復刻版

「民間伝承」は、日本民俗学会の前身である「民間伝承の会」(1935年設立)の機関誌として柳田國男指導のもとに創刊された。今回は、創刊号からの6年半(通巻78号)の第1回配本と戦後の1958年の3か月合併号からの3年間収録した第2回配本を同時刊行!!



- 第1回配本(1935年9月号~1942年3月号/予定)
本体価格 154,000円+税 ISBN978-4-86759-426-1
- 第2回配本(1958年4・5・6月合併号~1960年12月号/予定)
本体価格 154,000円+税 ISBN978-4-86759-427-8

1アクセス・3アクセス共に同一価格です

2023年
11月
発売予定

本書を推薦いたします (敬称略)

関西学院大学社会学部長 島村 恭則

民俗学は、『郷土研究』、『民間伝承』、『旅と伝説』といった民俗学系雑誌とともに成長してきた。それは、全国各地の在野研究者から寄せられる膨大な事例が掲載された資料の宝庫だったのだ。

かつて、民俗学者は、これらの雑誌を手元に揃えていた。1970年代には、復刻版も刊行されていた。しかし、その後、入手困難になったこともあり、これらの雑誌を活用する人は少なくなった。

そうした中で行なわれる今回の電子書籍化は、状況を一転させる可能性が大いにある。電子化されることで、これらの雑誌を、いつでもどこにいても瞬時に読むことが可能になる。明治期から戦後期まで順番に目を通してよいし、好きなところから拾い読みを重ねていってもよい。これにより、読者はつぎつぎと新たな発見をしていくことだろう。埋蔵金の発掘のようなものだ。

そうして見つけたテーマや事例に、現代の新たな方法論や理論でアプローチすれば、必ずや新鮮な研究が生まれることだろう。また、電子版には、検索機能が備えられている。

ある民俗事象のキーワードを入れれば、一瞬にしてたくさんの類例を集めることが可能だ。比較研究が大いに進むことになる。私は、民俗学初学者の頃、これらの雑誌の復刻版を手に取り、むさぼるように読んでいた。

どの号も、ワクワクしながら頁を開いた。そして、こんな雑誌が毎月届いたら、どんなに楽しいことかと思った。

いま、われわれは、電子化によって『郷土研究』、『民間伝承』、『旅と伝説』をいつでも読むことが出来る。民俗学の楽しみに思う存分浸れるのだ。

民俗学の発展を支えた三大雑誌 ——電子版で再生する民俗資料の宝庫——

お奨めします

民俗学、文化人類学、観光学、言語学、社会学、芸能、宗教、神道の研究者、大学図書館、公共図書館など

解説: 島村恭則 関西学院大学社会学部長 (『民間伝承』『旅と伝説』共に)

